

平成 30 年 7 月 8 日（日）施行

第 191 回 全経簿記能力検定試験 2 級 工業簿記 解説

第 1 問

1. 製品の箱詰め作業に従事しているため、直接労務費
2. 主要材料費のため、直接材料費
3. 運搬作業員の賃金は、間接労務費
4. 燃料費は、間接材料費
5. 月割経費は、間接経費

第 2 問

1. 材料購入を掛けで行った。引取運賃も材料に含める。
2. 材料消費額を仕掛品勘定に振り替える。
3. 賃金消費額を製造間接費勘定に振り替える。
4. 製造間接費を仕掛品勘定に振り替える。
5. 製品が完成したため、仕掛品を製品に振り替える。
6. 売り上げと同時に、製品原価を売上原価に振り替える。

第 3 問

月末仕掛品原価と完成品総合原価を求める。

材料はすべて始点で投入。月末仕掛品の評価は平均法。したがって計算表は下記ようになる。

平均法による原価計算 単位：円

原価計算表

	数 量	直接材料費	換算量	加工費	合 計
月初仕掛品	400kg	258,600	200kg	110,500	369,100
当月投入	2,600kg	1,661,400	2,500kg	1,374,500	3,035,900
合 計	3,000kg	1,920,000	2,700kg	1,485,000	3,405,000
月末仕掛品	500kg	① 320,000	200kg	② 110,000	430,000
完成品	2,500kg	1,600,000	2,500kg	1,375,000	2,975,000

① $1,920,000 \times 500\text{kg} \div 3,000\text{kg} = 320,000$

② $1,485,000 \times 200\text{kg} \div 2,700\text{kg} = 110,000$

第4問

- ① 材料を消費し、仕掛品に振り替える。

(借)	仕掛品	894,000	(貸)	材料	894,000
-----	-----	---------	-----	----	---------

- ② 賃金を消費し、製造間接費に振り替える。

(借)	製造間接費	480,000	(貸)	賃金	480,000
-----	-------	---------	-----	----	---------

- ③ 製造間接費を仕掛品に配賦。

(借)	仕掛品	1,510,000	(貸)	製造間接費	1,510,000
-----	-----	-----------	-----	-------	-----------

- ④ 仕掛品が完成し、製品に振り替える。

(借)	製品	4,686,000	(貸)	仕掛品	4,686,000
-----	----	-----------	-----	-----	-----------

- ⑤ 製品原価を売上原価に振り替える。

(借)	売上原価	4,803,000	(貸)	製品	4,803,000
-----	------	-----------	-----	----	-----------

第5問

原価計算表の作成

#104

月初仕掛品 =	312,900	原価計算表に記載してある。
直接労務費 =	103,600	2月の直接労務費実際発生額 592,000 × 140 時間 ÷ 800 時間
製造間接費 =	52,500	製造間接費 300,000 を 配賦基準（直接作業時間）を用いて、配賦する。300,000 × 140 時間 ÷ 800 時間

#105

直接材料費 =	26,700	材料元帳払出欄より 2/5、2/14 に出庫している。
直接労務費 =	340,400	2月の直接労務費実際発生額 592,000 × 460 時間 ÷ 800 時間
製造間接費 =	165,000	製造間接費 300,000 を 配賦基準（直接作業時間）を用いて、配賦する。300,000 × 460 時間 ÷ 800 時間

#106

直接材料費 =	32,000	材料元帳払出欄より 2/19 に出庫している。
直接労務費 =	96,000	2月の直接労務費実際発生額 592,000 × 200 時間 ÷ 800 時間
製造間接費 =	48,000	製造間接費 300,000 を 配賦基準（直接作業時間）を用いて、配賦する。300,000 × 200 時間 ÷ 800 時間

製造間接費実際発生額 = 300,000

間接材料費 145,000 + 間接労務費 94,000 + 間接経費 60,000 + 棚卸減耗費（間接経費）1,000